

全大教新聞

2021年1月10日
第379号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
(略称：全大教)



【PDF版(全面カラー)】
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

【電話】03-6802-4250

【HP】<http://zendaikyo.or.jp/>

【所在地】〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階

* 組合員の購読料は
組合費に含まれて
います(一部30円)

今月の紙面

- 2 【新年号特集】
座談会「コロナ禍での教育研究医療
現場での実態と今後について」
〜続き〜
- 3 財務省要請(筑波学研協 特殊法人労連、
国公労連と三者共同) 2020年12月4日
- 3 同「労働同一賃金」最高裁判決Web学習
講師 今泉義典弁護士(2020年12月9日)

- 4 共闘団体委員長「新年連帯挨拶」
・日本私立大学教職員組合連合会
・全国公立大学教職員組合連合会
・日本教職員組合
・全日本教職員組合
・日本新聞労働組合連合
・日本医療労働組合連合会

新春座談会

コロナ禍での 教育研究医療

～現場での実態と今後について～



全国大学高専教職員組合
副委員長(教員部担当)
岡山大学自然科学研究科助教



全国大学高専教職員組合
中央執行委員長
静岡大学人文社会科学部経済学科教授



名古屋大学職員組合
医学部支部書記長
名古屋大学附属病院看護師



全国大学高専教職員組合
(公立大学協議会副議長)
横浜市立大学都市社会文化研究科教授



全国大学高専教職員組合
副委員長(高専協議会議長)
富山高専国際ビジネス学科准教授

教育現場や病院で起きたこと

【鳥畑】 昨年は、世界的なコロナ禍の中で、科学の力とそこで頑張る人間性、みんなが支え合う連帯の力が問われる一年でした。大学の教育研究が、対面から遠隔へと急な切り替えに対応する際に崩壊しなかったのは、毎週徹夜をしたという声があったように現場の方々の超人的な頑張りがあったからです。

今回の座談会は、それぞれの現場で試行錯誤をしながらも学んだこと、教訓を語り合い、組合があつてよかった、これから組合に頑張ってもらいたいことを社会に発信していくことで新しい年を少しでもよくしていくという主旨で企画されたものです。

【笹倉】 今回の座談会で進行を担当いたします笹倉です。よろしくお願ひします。まずはこの一年を振り返って、教育現場や病院ではどうであったかをお一人おひとりで思うところを述べていただければと思います。

【鳥畑】 入試の時期からかなり心配しましたが、3月末の団体交渉で、このままでは4月からの授業開始は無理だから延期しなければならぬのでは？と言っていたのですが、3月末の段階で通常通り対面で行うと大学側が突っぱねて、そのあと急に遠隔授業へ切り替わり、現場はたいへんドタバタしました。オンライン授業って結局何をやるの？と、まさにゼロからの

スタートで翻弄されてきたわけです。この想定外続きの緊急事態において全大教は、執行委員会や全国の加盟組合の頑張りもあり、機敏に取り組むことができたと思っています。

【笹倉】 全大教としては、2月に文科省と会見をし、それ以降も全体で7回ほど要請を実施しています。国大協や財務省への要請、学生団体との意見交流会なども行っていますよね。

【鳥畑】 文科省も想定外の事態が起きて、どう対応をしたらいいのか悩みながら模索しているとき、全大教から積極的な現場の声を届けているという要求をしていただろうか、と

【笹倉】 病院の方は現在進行形で事態が進んでいるので、たいへんご苦労があると思います。どのようにして、この一年を乗り切られたかお伺いしたいです。

【大八木】 名古屋大学附属病院では、2月ごろからICUでコロナ陽性患者の受け入れを始めました。もともと外科系と内科系にあつた二つのICUのうち内科系に収容するということがなつたので、コロナではない内科系の患者を外科系のICUへ移しました。5月には一つの病棟を空けてコロナ患者専用の病棟をつくっています。その頃のコロナ陽性患者を担当するスタッフの中には、食欲がなくなつた人や眠れなくなつた人がいたり、相当ストレスがかかつたという話を聞いています。そこで、固定してスタッフを回すか、コロナのみの担当にするのか、相談しながら少しずつ変えてみたりして、結局は非固定でスタッフを回すようにしているようです。家へ帰るのが気になるスタッフに対しては、寮が貸し出されています。

【笹倉】 横浜市立大の状況はどうでしたか？

【山根】 私どもの大学もたいへんで、各ゼミは追い出しコンパを控えよという指令が3月上旬に出て、その辺りからだいぶ警戒態勢が始まりました。最初は1週間ばかり遅らせて4月15日から前期の授業を始めますとしていたのですが、それも無理となつて5月7日から開始へ延期となりました。前期はやむを得ないから13回授業、足りない2回分はそれぞれ工夫することとし、全面的に遠隔授業で原則Zoom使用という通達がきました。そこで、「使えっていうものか？」と困惑した教員が多くおりましたので、デジタルなものを習熟している教員がZoomの使い方を率先して開いてくれました。おかげでかなり準備ができたということがありました。そこは、教員同士で助け合ふうしかなかつたので、教えてくれる教員は大変だつたと思います。そういう助けた体験がありました。演習は別ですが、いまも私が担当する科目は、ほぼ遠隔授業で行っています。

【笹倉】 確か高専は全部対面になつたと聞きましたが。

【岡本】 いまは全部対面です。私の勤務している富山高専では4月の第2週から遠隔授業を始めて、実質的(2面へつづ)

【鳥畑】 文科省も想定外の事態が起きて、どう対応をしたらいいのか悩みながら模索しているとき、全大教から積極的な現場の声を届けているという要求をしていただろうか、と

【笹倉】 今回の座談会で進行を担当いたします笹倉です。まずはこの一年を振り返って、教育現場や病院ではどうであったかをお一人おひとりで思うところを述べていただければと思います。

【鳥畑】 入試の時期からかなり心配しましたが、3月末の団体交渉で、このままでは4月からの授業開始は無理だから延期しなければならぬのでは？と言っていたのですが、3月末の段階で通常通り対面で行うと大学側が突っぱねて、そのあと急に遠隔授業へ切り替わり、現場はたいへんドタバタしました。オンライン授業って結局何をやるの？と、まさにゼロからの

【鳥畑】 昨年は、世界的なコロナ禍の中で、科学の力とそこで頑張る人間性、みんなが支え合う連帯の力が問われる一年でした。大学の教育研究が、対面から遠隔へと急な切り替えに対応する際に崩壊しなかったのは、毎週徹夜をしたという声があったように現場の方々の超人的な頑張りがあったからです。

今回の座談会は、それぞれの現場で試行錯誤をしながらも学んだこと、教訓を語り合い、組合があつてよかった、これから組合に頑張ってもらいたいことを社会に発信していくことで新しい年を少しでもよくしていくという主旨で企画されたものです。

【笹倉】 今回の座談会で進行を担当いたします笹倉です。まずはこの一年を振り返って、教育現場や病院ではどうであったかをお一人おひとりで思うところを述べていただければと思います。

【鳥畑】 入試の時期からかなり心配しましたが、3月末の団体交渉で、このままでは4月からの授業開始は無理だから延期しなければならぬのでは？と言っていたのですが、3月末の段階で通常通り対面で行うと大学側が突っぱねて、そのあと急に遠隔授業へ切り替わり、現場はたいへんドタバタしました。オンライン授業って結局何をやるの？と、まさにゼロからの

(1面つづき)

に授業が止まったのは1週間だけでした。その1週間、は、学生を集めてひらすら遠隔授業を受けるレクチャーを行っていました。そのため相当スムーズに移行できましたが、レクチャーを担った教職員は大変でしたし、一度集めた寮生を1週間でまた帰さねばならないので、その調整にあたる寮関係の教職員も大変でした。座学中心の場合はプレゼンテーション化しやすいので、Teamsを使っての授業となりました。その中で悩ましい問題となったのは著作権でした。いまま

では「資料集のページを見て」と言っていた部分を画面上に出していいのかどうか。5月に入り特例でよくなりましたが、4月中は正直困りました。動画に関しては結局はつきりしなかったです。その後、6月の第2週から対面になりました。多くの高専では、5月の連休明けから遠隔を始めて、足りない分の授業を取り返せとということで、夏休み明けの9月1日あたりから実習を中心に対面授業を開始したようです。本来、大部分の高専は8月のお盆前くらいから9月20日くらいまでが夏休みなのですが。

困窮する学生、疲弊している教職員・医療スタッフ

【笹倉】現場の感覚として、授業効果を上げるために一人ひとりの学生に対するケアとか、到達点の確認も必要ですし、非常にたいへんですよね。

【山根】学生から、どうしてもこの日はアクセスできないので対応してほしいと連絡が入ると、これは対応する義務がありますので「よろしい。Zoomの授業を録画しておくからあとで見られるようにしておきますね」なんて言ったのに、すっかり録画するのを忘れて、また一人で黙々とZoom画面を相手に同じ授業をもう一回90分間やり直したこ

繁に起きています。また、ゼミ生に「何か生活に困っている人はいませんか?」と聞いても、誰も私は困っていますと言わないので分からない。アルバイトもまなならない状況ですので、経済状態の悪化で苦しむ学生の問題は深刻です。

【鳥畑】昨年、静岡大は連休明けから正式に授業が始まったのですが、学生たちは3月の早い時期から静岡に来て4月からの授業に備えていました。その間どのように過ごしたのかと聞いたら、ずっと下宿にこもっていたと言っていました。彼らに対して、こういうケアをしていたかという大きな空白がありました。オンライン授業が始まり、サーバーの増強も含めて学内のWiFi環境の整備を要求しても大学当局が動かない。その状態がほとんど改善されないまま昨年一年間が終わってしまいました。今年どれくらいこの辺りが改善されるのか、オンライン授業の可能性を生かしたこれからのアフターコロナの授業を展望したときに、政府はしっかりビジョンを持って学生の視点から予算を投入してほしいと思います。

【笹倉】工学部や理学部などのドクターやマスターの学生を抱えているところで話をしますと、この一年研究ができないと軒並み捕

って卒業が危なくなってしまうのです。そこで一刻も早く実験を再開したいというのを大学側に要求し、5月の半ばくらいから大学に入って実験をしてもいいことになりました。学生や任期付きの教員が研究できなかったらその後の人生が大きく崩れてしまうのです。コロナとか関係なく、みんな大学に来て研究をしています。いま研究員たちが置かれていた状況というのは非常に厳しいものです。若手研究者の支援が急務であることを社会全体の問題として考えて欲しいと思います。

この中央の組織というものが、いまこそ役に立ってほしいというときに機能不全に陥りました。現場に丸投げのまま、実態を確認することもなく、あれこれ一方的に注文をしてくるけれども、寮の状態を見たことあるのか?教室の狭さを見てみるのか?というふうなあらゆるところで乖離があるんです。中央の機能というのは、いざというときに期待できない。だからこそ何かあったときには、労働組合が言わないと中央は動かない、ということです。

【岡本】まさにそうだと思います。私の研究分野で言うと人文地理学ですから、フィールドワーク中心で外へ出られないというのはどうにもならないという状況が調査に行けないわけです。ゼミの学生にも「調査に行け」とは言えないし、なにもしないという感じでした。それから私はたまたま高専5年生、つまり最終学年のクラスの担任をしていますけれども、とにかく就職が見通せない。そもそも採用活動が止まっていますので、学生のせいでもなんでもないのになんか思っています。

【笹倉】この一年、身に染みて分かったことが三つほどありました。一つは、高専だったから高専機構本部、大学は文科省になるのでしょうか。

だと言われたとき、労働時間管理やただ働きの危険性をどうやって配慮するのか、それについてのルールづくりを今後の一、二年間でやらなければならぬ。新しい課題だと思いました。

【笹倉】ありがとうございます。大八木さんにお聞きしたいのですが、医療スタッフのみなさんの様子と言いますか、疲れてきたとか、やっぱりこは頑張らなきゃとか、どのような状況になっていきますか。

【大八木】ICUのスタッフたちがずっと言っているのは、感染した人への対応、救急外来も通りますので動線が気になるとか、どのエレベーターに乗るとか、本

組合の意義を実感

【山根】私の所属する組合でも仲間になんか要望や問題があるかというアンケートを2回実施しました。それを元に要求活動をし、細かいところは解決した課題もあったので、関係者に褒めてもらっている面もあります。全大教や所属組合の皆さんの取り組みは非常に参考になりましたし、このような連携があつてありがたいです。組合の意義は今ますます大きくなっていきますね。

【岡本】例えば、遠隔をやるとせよ対面授業をやるに

当にこれで大丈夫なのか?という不安が常にあります。コロナ患者の専用病棟ができて、最初の頃は、熱が出ていとか、疑いでも収容されていて、コロナではないと言われて普通の一般病棟に上がってきたらコロナだったみたいなケースもありました。それが秋ぐらいになってから、少し整って減ってきたかなという印象はあります。とは言いつても、リスクはずっとあるので、危機感現場のほうはかなり高いです。コロナ患者を担当しているスタッフが報われないみたいなことが起きないように病院を助けて欲しいです。緊張感を持って働いているのに、ボーナス減額とかやり切れないです。

せよ、学生の安全であるとか、教育サービスをどうやって維持するかということを教員集団は何よりもまず先に考えます。しかしながら自分たちの安全、自分たちに対するサービスの維持ということになかなか意識が回らない。結果的に自分で自分を追い込みかねない局面にあつて、あえて労働者として自己主張ができるのは組合しかなかった。私たちの安全を考えてくれと明確に言えるのは組合だけだ。やはり組合があるべきだなとつくづく感じた次第です。

【笹倉】病院では、例えばこうして欲しいとか組合として意見を上げていくなどの議論は出ていますか?

【大八木】4月の終わりにらいに防疫等作業手当の通達が来ました。手当は4000円/日です。この手当について、知らないスタッフがつけてこうお礼言っていて、師長クラスでもどのよう申請するのか分かっていない方がいるみたいなので、必要な人にしっかり情報伝達が行き渡ることを、手当がきちんと支払われるよう組合から病院に対して意見を出していきたいと思います。

【鳥畑】文科省や財務省の担当者たちは、学長からは聞けないような情報や話を聞きたがっています。大学の自治がトップダウン式のような経営では、彼らが欲しいような情報に耳に入らない。今回のコロナ禍で意見や要請を幾度と行う中で実感したことです。

また、アフターコロナの大学、教育研究をどう展開していくかというときに全大教の役割を發揮し、発言をしていく。人件費をほとんど削っていくような仕組みを取り払って、現場の教職員の力を生かせるような大学づくりのために、情報発信をしていくことが組合の重要な役割であると考えています。